

タイトル (12p MS ゴシック体)

副題 (10.5p MS 明朝体)

氏名 (10.5p MS 明朝体)

(所属) (10.5p MS 明朝体)

キーワード：重要度順に3つまで記載してください。(10.5p MS ゴシック体)

1. 小見出し (10.5p MS ゴシック体)

本文 (10p MS 明朝体)

2. 小見出し

本文

3. 小見出し

本文

①学会発表要旨テンプレートと学会誌投稿テンプレートは同じテンプレートを使います。但し、ページ数は異なり、学会発表要旨は2ページ、投稿論文は8ページとなります。1枚目は上から7行がタイトルなどの記入欄になります。副題がない場合はその行を空白にして下さい。副題が1行の場合は、1行空白にして氏名として下さい。

②氏名が複数、所属が異なる場合は以下のように記載してください。

○教育太郎¹・教育花子¹・教育次郎² (非会員)

(¹人間教育大学大学院○○研究科・²理化学研究所)

③キーワードは重要度順に3つまで記載してください。

タイトル (12p) を除き、①から③まで 10.5p、フォント指定のない場合は MS 明朝体で記載してください。

④本文は 8 行目から 37 行分、2 段になります。2 枚目からは、23 字×44 行×2 段で作成してください。

⑤小見出し (10.5p MS ゴシック体) を除き、本文は 10p MS 明朝体で記載してください。但し、発表者が一部を他のフォント体で表現することを禁止しません。表やグラフを除き本文は 10p で記載してください。

⑥図・表・写真 (モノクロに限る) は、見やすい大きさにして下さい。

⑦発表要旨原稿は 2 ページを超えないようにして下さい。送付された原稿はそのまま掲載しますのでご注意ください。

⑧引用・参考文献の記載については、右記の条件通りに行ってください。

・本文で初めて文献を記載する時は「フルネーム (発刊年)」で記載し、引用ページは () 内に記載します。

例：(該当箇所下線)

梶田叡一 (2006) は、目標分析が「目標の明確化」を「具体化、現実化」し、単元目標達成のために必要不可欠な「中核目標」を明確にするために、『単元目標分析』⇒『単元目標構造図』⇒『指導順路案』⇒『単元指導計画』⇒『各授業時限の指導略案』の順に行うことを述べている (p. 10)。

・2 ページ以上にわたる場合は「(pp. 10-12)」のように記載してください。

・文末に「【引用・参考文献】」欄を設けて文献著者名を五十音順に並べてください。外国の文献の場合は、著者名のアルファベットを五十音に置き換えて五十音順に並べてください。

・記載の仕方は、雑誌の場合下記のとおりです。

フルネーム (発刊年)「論文名」雑誌発行者 [論文著者と同一場合は略]『雑誌名』雑誌発刊先 [出版社。出版社でなく不明の場合はなし]

・また、書籍の場合は下記のとおりです。

フルネーム (発刊年)『書籍名』出版社

・インターネット上のデータの場合は、URL と存在確認日 (西暦年月日確認) を記載してください。

具体例は以下に示します。

【引用・参考文献】 (10.5p ゴシック体)

東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田叡一編 (1988)『現代教育評価事典』金子書房

梶田叡一・下館市立下館小学校 (1986)『形成的評価と授業改善／形成的評価による学力保障と成長保障』明治図書

梶田叡一 (2006)「授業力を磨く」人間教育研究協議会編『教育フォーラム 37 号／授業力を磨く』金子書房
鳴門教育大学 (2006)「授業実践力評価スタンダード (国語科)」

http://www.naruto-u.ac.jp/05_kyyoumu/0555_gp/pdf/standard/kokugo.pdf (2016 年 8 月 15 日確認)